

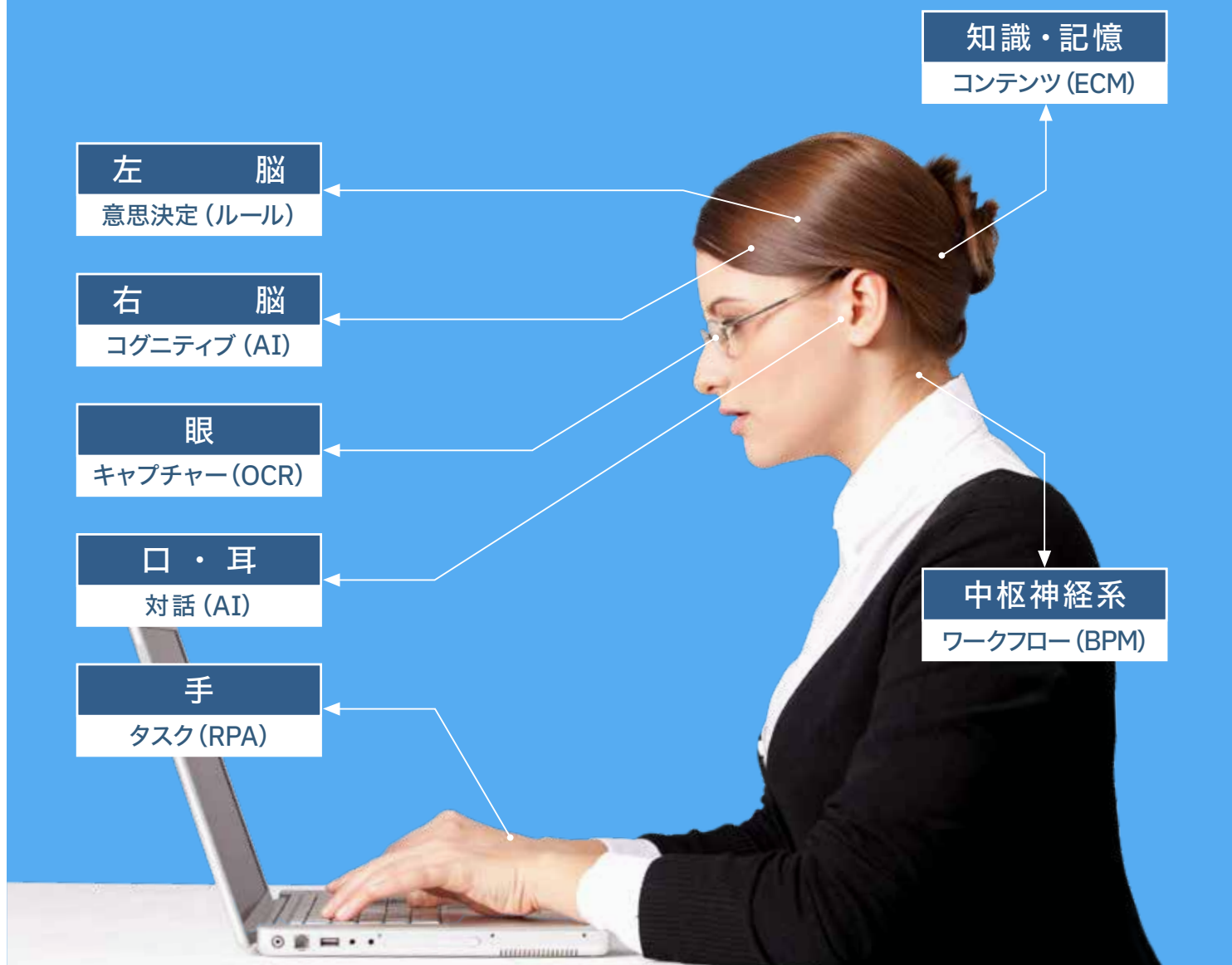
デジタル・レイバーの活用で働き方改革を推進

IBM 業務自動化ソリューション

働き方改革を実現する手段の1つとして注目を集めている技術が、単純作業をソフトウェア・ロボットに代替させる RPA (Robotic Process Automation) です。RPAを活用することで、知的労働者は単純作業から解放され、より重要な業務を担うことができるようになります。

知的労働者が日々行う作業には、紙にある情報を読み取ってデジタル化したり、意思決定を行ったりと、RPA だけでは処理できない作業も多く含まれます。

IBMは、業務の見える化を行い、RPA、OCR、BPM、ルール、コンテンツ管理、AIといった様々なソリューションで、真のデジタル・レイバーを実現します。



IBM Blueworks Live

ソーシングやRPA 適用、業務標準化など、様々な場面で活用される業務プロセス図。新しく作っては更新せずに陳腐化を繰り返していませんか？ IBM Blueworks Live は、直感的な操作とシンプルな機能で、誰にでもすぐに使える業務プロセス作成ツールです。
最新バージョンを簡単に更新・一元管理して、業務プロセスを資産化します。

- インストール不要：ブラウザーがあればすぐに使用可能
- トレーニング不要：操作がわかりやすく簡単
- クラウドでバージョン管理：複数バージョンの参照・復元

- 分析と改善：コストや時間など、任意の属性を可視化
- 共有と活用：Web 公開やファイル出力、IT 開発への連携

合意形成を支援

長い年月を経て築き上げられた業務オペレーションは、簡単に変えることはできません。一方で、デジタル変革を実現していくには、手作業を前提としたルールや手順を抜本的に見直す必要があります。

業務のやり方を変革していくには、組織や拠点をまたがった合意形成が重要です。IBM Blueworks Live は、コンサルタントのためのツールではなく、業務をよく知る現場担当や社内プロジェクト・チームが簡単に業務プロセスを書き、改善にむけたコミュニケーションを行うためのツールです。

共同作業による業務プロセス作成や、いつ誰が何を変更したのかがすぐにわかるアクティビティ・ストリーム、チャットやコメントといったコラボレーション機能により、マネジメントと現場、異なる組織や拠点間での合意形成を支援します。

業務プロセス作成における使いやすさを追求

業務プロセスを作成すると、人によって記述の詳細さが全く異なります。経営層やマネジメントはバリューチェーンや業務単位で粗く捉え、現場担当者やITシステム部は手順書のような細かさで書くことが多くあります。

Blueworks Live では、最初にディスカバリー・マップを作成し全体を俯瞰することで、範囲や粒度を検討しやすくしています。マップはテキスト入力のみで作れるので、ヒアリングしながらでも早く効率的に作業できます。

他の人が作成したプロセスの粒度やコメントを反映して、粒度を調整することも簡単です。

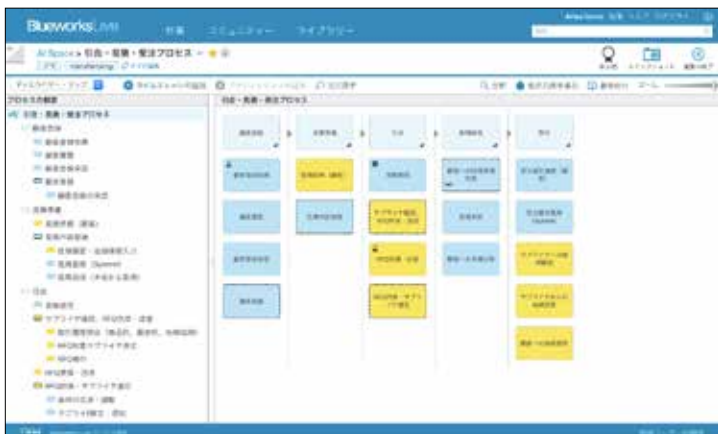
業務プロセスでは類義語が頻発し、用語の統一が課題となります。Blueworks Live では、グロッサリー機能によって複数の業務プロセスにわたって使用されている類義語をリストアップし、使用される場所を確認したり統一したりすることができます。

表計算ソフトと何が違うの？

Blueworks Live では業務プロセスが別々のファイルに保管されるのではなく、全体を関連付けることができるため、プロセスの階層や前後のつながりをリンクで行き来できるようになります。全体を把握したり不整合がないかを確認したりするのに有効です。

また業務プロセスを変更するとき、オブジェクトをずらしたり線をつなぎ直したりする必要はありません。アクティビティの追加や削除をすれば、ツールが自動的に線をつないで再配置してくれます。一連のアクティビティを選択してサブプロセスにするなど、粒度の変更も簡単です。

細かな機能と使いやすさが、業務改善活動に大きな影響を与えることを、多くのお客様が体験されています。



ディスカバリー・マップ



プロセス・ダイアグラム 分析モード



IBM Datacap

Datacap は、紙のコンテンツ(画像イメージ・データ)から業務システムに必要なテキスト・データ(構造化データ)を抽出します。Datacap は、単純なOCR 製品ではなく、複数のOCR エンジンを持ち、定型と非定型の両方の帳票に対応し、画像の分類やデータ検証プロセスなど全体の自動化を支援することで作業効率・データ精度を向上させます。

- コグニティブ・キャプチャー (非定型帳票処理)
- OCR トータル・ソリューション (OCR 前後処理)
- 複数チャネルのキャプチャー
- システム連携 (RPA/ 他社 OCR エンジン/Watson 連携など)

- 役割ベースのデータ・マスキング (セキュリティ)
- クラウドでの文書キャプチャー
- 他のECMソリューションとの統合

Datacapの活用例

IBM Datacap は、スキャナー、FAX、デジタル・ファイル (PDF など)に加え、アプリケーションやモバイル端末からの画像もサポートしています。

活用例

- ・ 紙の申告書のマイナンバーの収集と管理を自動化
 - ・ 設計図面のデジタル化
 - ・ 金融機関の紙情報のデジタル化
- など多様な業界で利用されています。

OCR トータル・ソリューション

Datacap は、紙を含めたコンテンツ(非構造化データ)から業務システムに必要な業務データ(構造化データ)を抽出生成します。OCR の前後処理を含めたインテリジェントな処理により、データ抽出精度の向上とキャプチャー・プロセス全体の作業効率向上を実現します。

現状の課題

大量の書類、手作業による分類とデータ入力、目視検証、保管の手間、紙による保管ではデータとして活用できないなどの課題があります。

- ① 帳票の入力とグルーピング(バッチ作成)
- ② 書類をソートし帳票毎の分類
- ③ データ入力
- ④ データ検証
- ⑤ 書類の保存や送付

Datacap 採用後

OCR 前処理に必要な、帳票の準備や仕分け、データ抽出、入力と読取結果の突合、補正画面の表示などキャプチャー全体のプロセスを自動化します。

- ・ コスト削減 (紙保管・印刷・人件費など)
- ・ 処理時間の短縮
- ・ 高度な作業への人員シフト

大量の書類、手作業による分類とデータ入力、目視検証、保管の手間...



定型帳票の場合、事前に帳票の読み込み欄を定義しておきます。Datacap は、画像のバーコードや帳票自身の陰影(フィンガープリント)で自動的に帳票を認識し、事前定義に従いデータを抽出します。OCR エンジンは標準提供以外のものを組み合わせて利用することも可能で、文字認識精度を高めることができます。OCR 処理は、100%の精度は期待できません。そのため、人手による検証が必要になります。Datacap は、入力と読取結果を対応させて表示する画面を提供します。ここでは、信頼性レベルで色を変えて注意喚起を行うことができます。また、ルールやDBと連携したデータ検証による精度向上や役割に応じた帳票毎のデータのマスキングによりセキュリティ性を向上します。

非定型帳票への対応 (コグニティブ・キャプチャー)

同じ情報が書かれているのにフォーマットが違う多種類の帳票を扱いたい場合があります。このような非定型帳票のデータを次に示すコグニティブ機能により帳票の事前読み込み欄定義なしで構造化データとして抽出する機能を提供しています。



システム連携による自動・高度化

システム連携機能によりOCR 業務のさらなる自動化促進と抽出データ精度向上の実現が可能になります。

- ・ RPA 連携による自動化促進 (IBM RPA 標準連携)
- ・ 他社 OCR エンジン連携による精度向上

Content Analyzer on Cloud (SaaS 版)

多種類少量の非定型帳票を扱う場合には、クラウド環境で手軽に試してみたい場合があります。2019年1月現在、英数字のみ対応したOCRソリューションをクラウド環境でも提供しています。



IBM RPA with Automation Anywhere

Robotic Process Automation (以下 RPA) は、繰り返しの作業を自動化する簡単な方法です。データの「コピペ」や Web サイトのチェックなど、PC を使った定形作業の手間とエラーを減らすことができます。IBM RPA はサーバー型 RPA で、ID/パスワード 管理や役割ベースのアクセス管理機能も提供します。

- レコーディング機能とドラッグ&ドロップで容易な開発
- 豊富なコマンドで Office ツールと Web アプリ以外の多様な業務に対応可能
- ボットのスケジューリング (例: 休日の時間) やトリガー (例: メールやファイルの変更) で実行が可能
- ボット作成や実行、サーバー登録の役割ベースアクセス制限
- ボット開発や管理者に ID/パスワード を知られずに使用者が管理することも可能。パスワード変更対応も容易
- AI Sense 機能で、リモートデスクトップ使用時の開発、保守の生産性を向上

RPA の利用

IBM RPA with Automation Anywhere (IBM RPA) は、PC 上での業務アプリの GUI 操作を自動化することで、反復タスク (データ抽出、データ転送、データ計算、またはデータ入力など) の生産性と正確性を向上させます。業界に関わらずいろいろな業務や作業で利用されています。

活用例

- Excel/csv から勤怠管理システムへの入力
- 予約管理システムでの Excel から Excel への転記
- 作業指示書 Excel の作成
- 複数 Web サイトにアクセスし情報収集
- OCR フレームワークの前や後の作業自動化
- 3270/5250 や Notes との連携

IBM RPA が利用されているのには理由があります。

開発生産性の高さや内製化しやすさ

RPA では業務担当者による開発が求められます。html、.Net、WPF、Java、Flex、Silverlight などの様々なテクノロジーで作られたアプリケーションをレコーディング機能によってボットのひな形を作成できます。さらに豊富なコマンドをドラッグ&ドロップで使用することでボット機能を拡張し完成させることができます。また再利用コンポーネントを開発したり、Web (Bot Store) から (例 IBM は、Watson を呼び出すコンポーネントを無償提供。クラウド、ERP、CRM ベンダー等が多数提供) 入手して利用できます。

小～大企業に対応したセキュリティーや運用管理

ボットの開発を外注する場合もあります。基幹システムへアクセスする ID やパスワードが埋め込まれたボットを外注開発者に渡してしまうのは、セキュリティー上問題はないでしょうか？

IBM RPA は、サーバー型 RPA なので、ID/パスワードなどの資格情報をサーバーで管理できます。利用者のパスワードを RPA 管理者も分からないように管理することもできます。パスワードを変更する場合は、サーバー側での変更で対応可能です。ボットの開発、サーバー登録、スケジューリングでの実

行など役割ベースのアクセス制限機能で管理されています。

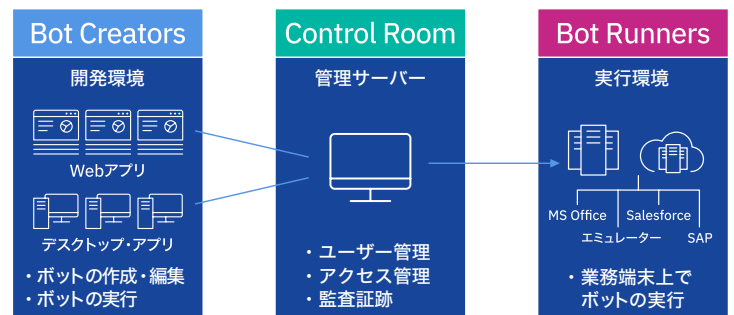
スタンドアロン PC 1 台での開発と実行から、クラスターによる高可用性構成で、1000 以上のボットを管理し、多数のボットを並行稼働する環境まで実績があります。

コグニティブ・BPM・OCR との連携

AI Sense 機能は、画面を画像として処理する必要がある仮想デスクトップのクライアントとして動くボットの開発と保守をコグニティブ機能を使用して生産性を向上させます。また、Business Automation Workflow からボットを呼び出す機能や OCR (Datacap) をボットから呼び出す Metabot を提供しているので、単に PC 操作の枠を超えて、サーバー側のワークフローからボットを呼出し、他システムとの連携するインターフェースとしても利用できます。IBM RPA と Datacap を設計図情報のデジタル化に活用された事例もあります。

スモールスタートから大規模拡張まで対応

IBM RPA は、Express 版と Enterprise 版の 2 種類のパッケージを用意しています。両パッケージには、ワークフロー (BPM) 製品が追加されています。さらに、Enterprise 版には、意思決定と IBM の自動化機能が追加されています。サーバー型 RPA のスモールスタートから業務改革まで対応しています。



IBM Content Foundation (FileNet)

IBM コンテンツ管理は、数百万から数億件にも及ぶエンタープライズレベルの大規模コンテンツ管理を実現し、業務および情報共有を効率化するためのさまざまな機能を有します。また、機密性の高い文書を安心して共有できる高度なセキュリティ機能や、他システムとの柔軟な連携を可能にする、標準技術を採用したAPI、業務に合わせた操作性を容易に実現する画面カスタマイズフレームワークを提供します。

- 開発・システム連携性 (Web 画面開発フレームワーク/標準技術 APIの提供)
- 迅速なデプロイのためのオプション (SaaS版/コンテナ版の提供)
- 業務生産性向上 (Web/Mobile 画面、コラボレーション・Office 連携・外部共有機能)
- 大規模コンテンツ管理アーキテクチャ
- 堅牢なセキュリティ
- 業務プロセス管理連携 (IBM ワークフロー)

IBM コンテンツ管理の活用例

企業の基幹業務で利用する重要文書の管理・活用が可能です。
活用例

- ・保険新規契約/支払査定イメージ管理
 - ・銀行の融資稟議書管理
 - ・グローバル契約書管理
 - ・グローバル重要技術文書管理
- など多様な業種で活用されています。

コンテンツの課題

分散した管理されない状況が多く、検索・共有が困難かつコンテンツが安全に保護できないセキュリティ上の課題があります。

統合管理されていないコンテンツ検索は困難

- ・ファイルの同期と共有
- ・ネットワークドライブ
- ・PC / モバイルデバイス

異なるシステムに存在する管理されないコンテンツ

- ・重複と断片化

ファイルのホスティングと共有サービス

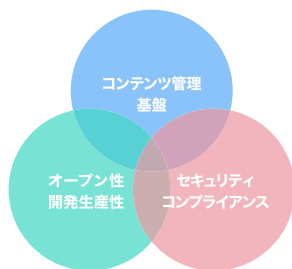
- ・コンテンツ分散によるセキュリティ、プライバシーとコンプライアンスのリスク

規制への対応

- ・管理されていないコンテンツの保護が困難

企業レベルの大規模安定稼働アーキテクチャ

企業レベルでの統合コンテンツ管理アーキテクチャの提供により、管理対象の文書数の増大に応じて、CPU/メモリ/ディスクサーバー増強/新しいコンテナ版提供により拡張性のある安定稼働のシステムの実現が可能です。国内外で、金融・公共・製造など小規模から数万人・数億件の大規模利用まで、多くの稼働実績を有します。



IBM コンテンツ管理の利用後業務生産性の向上

カスタマイズ性の高いIBM Content NavigatorのWeb/Mobile画面、ソーシャルやOffice 連携、外部共有、CMIS (Contents Management Interoperability Service) 連携による他社コンテンツ、IBM クラウド版コンテンツの統合により、社内外で共有してコンテンツを活用することが可能です。どこから、どのデバイスからも統一したコンテンツのアクセスが可能です。



セキュリティポリシーの統一

コンテンツ・属性単位の複雑なアクセス制御、コンテンツの暗号化、外部鍵管理、コンテンツ操作ログの管理、Web ビューワーによるダウンロード禁止により、セキュリティ性を向上して企業の重要コンテンツを高度に保護します。

開発・システム連携性

標準技術 (HTML5/CSS3/JavaScript) ベースのWeb 画面開発フレームワーク / 標準技術 API を提供します。これにより、お客様のご要望にあわせた業務画面の検討と迅速な開発と変更対応が可能になります。

Business Automation Content Services on Cloudの提供 (SaaS版)

コンテンツ管理とコンテンツ・ライフサイクル機能を提供するパブリック・クラウドのコンテンツ・サービスです。

卓越した拡張性、セキュリティ、安定性、移動性を備え、様々なユース・ケースで利用できる高度なコンテンツ管理機能を提供します。

- ・柔軟な月額サブスクリプション
- ・セキュアで拡張性のあるクラウド・インフラストラクチャー
- ・迅速なプロビジョンと即時アクセス
- ・パブリック・クラウドからいつでもどこからでもアクセス
- ・先進的な文書管理機能



*ECM: Enterprise Content Management



IBM Business Automation Workflow

業務オペレーションに合わせて、複数の業務機能を連携し、見える化するワークフロー基盤です。業務進捗やボトルネックをリアルタイムに見える化するとともに、AIやRPAなど新しいテクノロジーと既存システム、外部API、人を柔軟に連携して、デジタル時代の業務オペレーションを実現します。

■業務パフォーマンスをリアルタイムに見える化

- ・業務全体から個別案件までドリルダウン
- ・チームの案件滞留状況や処理履歴の確認
- ・重要な業務データをグラフ化

■パイロットから大規模プロジェクトまで実績のある基盤

■短時間で業務のワークフロー化や業務変更への対応を実現

- ・定義したプロセス(BPMN)がそのまま動く
- ・プロセス(BPMN)も画面も、ワンクリックで動作確認
- ・既存システム資産や外部APIを柔軟に連携

働き方改革の実現

働き方改革が叫ばれる中、いつも忙しいけれど原因が特定できない業務の現場が数多くあります。背景にあるのは「見えない業務プロセス」です。現場は定められた手順とルールに従って、毎日一生懸命に作業を進めています。しかし手順の効率性やルールの根拠が長い年月を経て不明確になり、「属人化」「ブラックボックス」「ローカル・ルール」による硬直化が進んでいないでしょうか。



IBM Business Automation Workflow (BAW) は、業務の流れとパフォーマンス見える化し、効率化と自動化を実現します。例外対応を含めた業務オペレーションの整流化により、「ブラックボックス」が管理可能な状態になり、業務の精度と品質が向上します。「ローカル・ルール」を精査することで、コンプライアンス対応と業務の標準化が進みます。無駄な手順を省き、単純作業にRPAを適用するなどの効率化を進めることで、「属人化」した匠の技を伝承する余裕もできるでしょう。

BAWではプロセス(BPMN)として書けない順序性のない作業(ケース管理)をサポートしています。BAWの基盤上で実行することで履歴が蓄積され、例外や少数ケースを徐々にフロー化していくことができます。

また既存システムやパッケージ・アプリケーションを直接変更せず、プロセスや画面をオーバーレイして自社の業務にカスタマイズすることができます。段階的なモダナイゼーションや、自動化に柔軟に対応する仕組みとしても数多く活用されています。

デジタル時代の業務オペレーション管理

多くのお客様でチャットボット画像認識などAI活用が始まっています。しかしAIにより拡大した顧客接点にバックエンド業務が対応しきれなければ、テクノロジー採用による業務効果を最大化することはできません。バックエンド業務でも登録・確認・判断といった作業の自動化を推し進める必要があります。

自動化された作業を管理するには、手作業を前提とした人による業務報告ではなく、自動モニタリングによる処理結果レポートの確認や進捗把握が必要です。BAWでは人が処理した作業だけでなく、AIやビジネス・ルールがどのような判断をしたか、RPAの作業実績やRPAと人の連携で待ち時間が発生していないかといった業務プロセス全体のパフォーマンス見える化します。



見える化されたパフォーマンスを元に、優先度や担当者を変更したり、特定の条件を満たした案件を自動承認したり、さらなる業務の改善や効率化を進めていくことができます。



IBM Operational Decision Manager

計算、判断、確認など柔軟に変更したい部分の実装をプログラムのソースコードから分離し、ルールとして実装して管理します。変更の少ない安定したシステム基盤と、柔軟に変更・進化させたい業務ロジックとを分離します。業務ロジックがルールとして可視化されることで、ビジネスとITのコミュニケーションの改善に役立ちます。

■ 変更に強いシステムを実現

- ・ 度重なる仕様変更にも柔軟に対応
- ・ 業務変更の検討開始から実施開始までの期間を大幅に短縮

■ ロジックの整理・管理が可能

- ・ いつ、誰が、どのような変更を行ったかがわかる

■ ロジックの可視化を実現

- ・ 業務用語、表形式等の可読性の高いルール定義
- ・ ビジネスユーザーが作る規定集と同じ感覚

メンテナンスコストの大幅削減

稼働しているビジネスルールのロジックが業務担当者にも分かり易く記述されているため、ロジックの変更・追加においても効率的な要件の理解・反映を行なうことができます。既存のシステムの実装では、いわゆるビジネス的な判断の業務ロジックは、システムの中で実装されます。それはプログラムソースコードであったり、DB のストアドプロシジャーであったりします。ビジネスの変更＝ルールの変更はそのままシステムの実装コードの変更となります。また、時間の経過とともに仕様書／設計書と実装コードが乖離し現状はソースコードだけが正しいといった状況はよく聞かれる事です。

業務効率の向上

ビジネスルールを外部定義化することでビジネスルールの一元管理を実現し、また、ビジネスルールを可視化(業務担当者が理解できる)することで結果としてシステムの柔軟性や監査性及び自動化による業務効率を向上させることを目指します。ODMの特性としては、単に日本語や表形式で可視化される、というだけではなく、ルール個々は疎結合な宣言的な定義になり、階層化されたフォルダー構成でルールを配置し整理・管理できるという面も、重要な特性です。これにより導かれる効果は、ビジネスの変更に対するシステムの更新にかかるコストを削減し、また、その変更が実施されるまでの時間も劇的に短縮されます。



ODM を適用したシステムでは、定義されたルールは、ルール実行環境に取り込み、既存の業務アプリケーションからはルール実行環境を呼びだします。ルール実行環境は受取ったデータに対して、取り込んだルールの定義に従って処理を行い、結果を返します。このようなルールを分離した構成と、ルールの開発・管理環境の機能性により、変更に対するシステムの保守性は格段に向上します。ルールは日本語や表形式の記述により可視化されそのレポートはドキュメントとして参照されることが可能です。ルールの管理環境はビジネスユーザーにとっても解りやすく扱いやすいものなので、日常的なルールの更新はビジネスユーザーの側で完結することも可能になります。

幅広い業界で採用

ODMは、汎用的な技術であり、その適用は幅広い分野で利用可能です。その導入の動機付けとなり、効果が期待されるビジネス的なシチュエーションには、外部的な要因として、ビジネスの対象やビジネスそのものの変化の激しさ、競争の厳しさがあります。ODMによる変化への対応は競争力の向上、ビジネスチャンスの拡大などビジネスそのものに大きな効果をもたらします。



IBM Cloud Pak for Automation IBM Digital Business Automation on Cloud

IBM 業務自動化ソリューションをクラウド環境で提供します。

IBM Cloud、AWS、Azure、Google などマルチクラウドとオンプレミス環境に提供する IBM Cloud Pak for Automation と IBM Cloud で SaaS 提供する DBA on Cloud があります。統合されたプラットフォーム上で、迅速かつ柔軟に機能を組み合わせることで様々な業務の自動化を促進し、デジタル・トランスフォーメーションを加速します。

IBM Cloud Pak for Automation

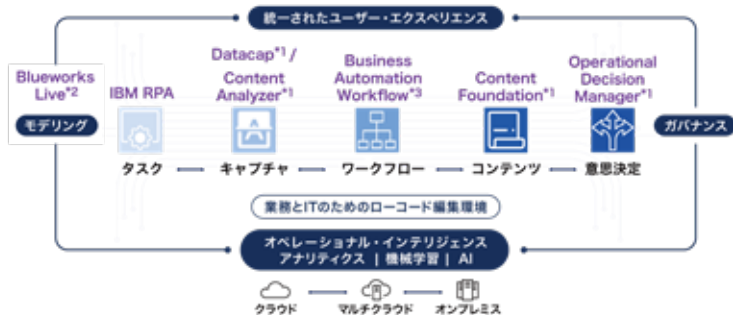
- OCR、BPM、ECM、意思決定他の機能を提供
- シンプルで柔軟なパッケージ・ライセンスで購入、拡張が容易
- モニタリング機能でビジネスの可視化と知的アドバイスを実現
- コンテナベース・アーキテクチャーで業務の成長や拡大に柔軟に対応

DBA on Cloud

- モデリング、OCR、BPM、ECM、意思決定の機能をクラウドで提供
- 統一されたユーザー・エクスペリエンス
- 運用や管理の簡素化によるコストの大幅な削減
- 構築不要で迅速な業務自動化と柔軟な拡大に対応

クラウドを利用したデジタル・レイバーの実現

業務自動化ソリューションの運用や管理を簡素化し、ビジネスの成長や拡張に柔軟かつ迅速に対応できるように IBM Cloud Pak for Automation と DBA on Cloud を提供します。



*1 各機能の詳細は前のページを参照してください。

*2 Blueworks Live は、SaaS のみの提供です。

*3 ワークフロー (BAW) 機能は 2020 年 1 月現在 OpenShift に統合されていません。

IBM Cloud Pak for Automation

OpenShift コンテナベースのキャプチャー、コンテンツ管理、意思決定とワークフローなどの自動化機能を提供します。コンテナの利用で迅速なデプロイメントと運用コストの削減を実現できます。さらに IBM Cloud Pak for Automation では次のコンポーネントを提供しています。

IBM Business Automation Insight

次世代のモニタリング機能で以下を実現します。

- ・データ・レイク：プラットフォーム上の全ての業務オペレーションからの

イベントをクラウド上に収集し、相関を計測

- ・ダッシュボード：経営者やマネジメントに必要な情報をリアルタイムに見える化する洗練されたダッシュボード
- ・アドバイス：AI (Watson) と連携し、データ・レイクに機械学習を適用することで洞察を導き、業務プロセスや意思決定の改善ポイントを推奨

IBM Automation Digital Worker

DBA と AI の機能を最大限に活用して、業務ユーザーの知的作業を補完し効率化します。

IBM Automation Workstream Services

増え続ける業務を効率的かつ効果的に処理できるよう事前定義の生産性サービスを提供します。単独での使用もワークフロー作業での使用も可能です。

IBM Business Automation Studio

業務ユーザー用ローコード開発ツール。ユーザー主導の改革を支援します。

IBM Digital Business Automation on Cloud

IBM Cloud で次の機能を SaaS として提供しています。構築や運用のコストを削減できます。また必要な機能とサイズを柔軟に選択できるので新たな実装に伴うリスクを低減できます。

- モデリング : Blueworks Live
- キャプチャ : Content Analyzer on Cloud
- ワークフロー : Workflow on Cloud
- コンテンツ管理 : Content Service on Cloud
- 意思決定 : ODM on Cloud

参考 <https://ibm.biz/CP4A-JPN>



参考 <https://ibm.biz/DBAonCloud>



お問い合わせ

IBM アクセスセンター

0120-550-210

受付時間 9:00~17:00 (土日、祝日および12月30日 から1月3日を除く)

このカタログの情報は 2020 年 1 月現在のものです。仕様は予告なく変更される場合があります。サービスや製品の詳細については、弊社の営業担当員にご相談ください。



日本アイ・ビー・エム株式会社

IBM、IBM ロゴ、ibm.com および IBM Cloud は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml (US) をご覧ください。©Copyright IBM Japan, Ltd. 2019 日本アイ・ビー・エム株式会社 〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町 19-21 Printed in Japan February 2019 All Rights Reserved